

空間 $B_{p,\mu}(R^N)$ における跡作用素について.

広島大 総合科 板野 暢之

$\mathcal{H}_{(m)}(R^N)$ はユークリッド空間 R^N での緩増加超関数 $u \in \mathcal{S}'(R^N)$ で, その Fourier 変換 \hat{u} が局所可積分関数,かつ

$$\int_{R^N} |\hat{u}(\xi)|^2 (1+|\xi|^2)^m d\xi < \infty$$

となる u 全体の作る空間である. これは temperate weight function μ として $(1+|\xi|^2)^{m/2}$ とした場合の空間 $H^m(R^N)$ である. $\mathcal{H}_{(m,\delta)}(R^N)$ も $H^m(R^N)$ の特殊な場合であり, これは偏微分方程式論でよく使われてくる基礎空間である.

$m > \frac{1}{2}$, $l \leq m - \frac{1}{2}$ より小さい最大整数とすると, 写像

$$\mathcal{H}_{(m)}(R^N) \ni u \rightarrow (u(x;0), \dots, \frac{\partial^l}{\partial x_N^l} u(x;0)) \in \prod_{j=0}^l \mathcal{H}_{(m-j-\frac{1}{2})}(R^{N-1})$$

は epimorphism であることが知られている.

== 2 == は, 空間 $B_{p,\mu}(R^N)$ ($B_{2,\mu}(R^N) = H^m(R^N)$) において跡作用素を中心として研究し, 超関数の筆跡積分, section との関係が明らかになる. とくに上記に対応する trace mapping が, epimorphism となる簡単な十分条件を求めた.

R^N とその共役空間 R^N の任意の点 $x = (x_1, \dots, x_N)$, $\xi = (\xi_1, \dots, \xi_N)$

とし、このスカラ積を $\langle x, \xi \rangle = \sum x_j \xi_j$, x の長さ $|x| = (\sum x_j^2)^{1/2}$ とする。微分演算子 $D_j = \frac{1}{i} \frac{\partial}{\partial x_j}$ に対応し $D = (D_1, \dots, D_N)$ とおき、多項式 $P(\xi) = \sum a_\alpha \xi^\alpha$ に対応して $P(D) = \sum a_\alpha D^\alpha$, $\bar{P}(\xi) = \sum \bar{a}_\alpha \xi^\alpha$, $\tilde{P}_p(\xi) = \left\{ \sum_{|\alpha| \geq 0} |P^{(\alpha)}(\xi)|^p \right\}^{1/p}$ とおく。 $p \geq 1$ のとき $P^{(\alpha)}(\xi) = i^{|\alpha|} D^\alpha P(\xi)$ である。

$\mathcal{S}(\mathbb{R}^N)$ の任意の元 ϕ に対応し、その Fourier 変換を

$$\hat{\phi}(\xi) = \int_{\mathbb{R}^N} \phi(x) e^{-i\langle x, \xi \rangle} dx$$

とし、 $u \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$ の Fourier 変換を

$$\langle \hat{u}, \phi \rangle = \langle u, \hat{\phi} \rangle, \quad \phi \in \mathcal{S}(\mathbb{R}^N)$$

と定義する。

\mathbb{Z}^N 上で定義された正值連続関数 $\mu(\xi)$ が

$$\mu(\xi + \eta) \leq C(1 + |\xi|)^k \mu(\eta), \quad \xi, \eta \in \mathbb{Z}^N$$

をみたす定数 C, k が存在するとき、 μ は temperate weight function と呼ばれる。 μ_1, μ_2 が temperate weight function ならば、 $\mu_1 + \mu_2, \mu_1 \mu_2, 1/\mu_1$ なども temperate weight function である。 $C_1 \leq \mu_1/\mu_2 \leq C_2$ なる定数 C_1, C_2 が存在するとき、 μ_1, μ_2 は同値と見做し $\mu_1 \sim \mu_2$ と記す。

$1 \leq p \leq \infty$ とし、 μ は temperate weight function とする。 $u \in \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$ で $\hat{u}(\xi)$ が局所可積分関数、かつ

$$\|u\|_{p, \mu} = \left(\frac{1}{(2\pi)^N} \int |\hat{u}(\xi) \mu(\xi)|^p d\xi \right)^{1/p} < \infty$$

となる u 全体の作る空間を $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^N)$ とする。 $p = \infty$ のとき

3, $\|u\|_{p,\infty}$ は $\text{ess. sup } |\hat{u}(\xi)\mu(\xi)|$ とする. $p=2$ のときは $B_{2,\mu}(\mathbb{R}^N)$

$\in H^m(\mathbb{R}^N)$ とする. これらの空間の性質は, L. Hörmander,

L. R. Volevič - B. P. Panejah によって知られる (調べる).
 3. $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$ は Banach 空間で $\mathcal{S}'(\mathbb{R}^N) \subset B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N) \subset \mathcal{S}'(\mathbb{R}^N)$ であり,

$p < \infty$ の場合 $\mathcal{D}(\mathbb{R}^N)$ が $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$ で稠密で, $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$ の

strong dual $(B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N))'$ は $B_{p',1/\mu}(\mathbb{R}^N)$ ($\frac{1}{p} + \frac{1}{p'} = 1$) である

3. 以下 $1 < p < \infty$ とする.

$u \in B_{p,\mu}(\mathbb{R}^N)$, $\omega \in B_{p',1/\mu}(\mathbb{R}^N)$ に対して

$$\langle \omega, \bar{u} \rangle = \frac{1}{(2\pi)^N} \int_{\mathbb{R}^N} \hat{\omega} \bar{\hat{u}} d\xi$$

$N = n+m$ とし, $x = (x', x)$, $x' = (x_1, \dots, x_n)$, $x = (x_1, \dots, x_m)$, $\xi =$
 (ξ', ξ) , $\xi' = (\xi_1, \dots, \xi_n)$, $\xi = (\xi_1, \dots, \xi_m)$, $\partial_x = D_{x'} D_x$ と記す.

Volevič - Panejah は μ が \mathbb{R}^{n+m} 上の temperate weight function として

$\int_{\mathbb{R}^m} \mu(\xi, x) dx$ は \mathbb{R}^n の任意の点 ξ' で発散するが, ∂_x

は任意の点 ξ' で収束するから, 1) つかである, 4) 収束する

ときは, \mathbb{R}^n 上の temperate weight function である. μ と記す

(1).

$\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ の任意の元 $u(x)$ に対して $u(x', 0) \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^n)$ に対応

させる写像は連続である. $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ は $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ で稠密である

3. もし $u \rightarrow u(x', 0)$ が $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ から $\mathcal{D}'(\mathbb{R}^{n+m})$ に連続的に

拡張されるならば, この拡張された写像を trace mapping

と呼び, u のこの写像に対する像を u の $t=0$ 上の

trace とよみ $u(x', 0)$ と記す。

これは、任意の $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$ に対して

$$\phi \otimes \delta \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$$

を意味する。よから、 $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ の任意の元 u に対して $\text{trace } u(x', 0)$

をとるための条件は $1/\mu(x', z) \in L^p(R^m)$ である。

$\mathcal{S}(R^{n+m})$ の任意の元 u に対して

$$u(x', 0) = \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \iint \widehat{u}(\xi', z) e^{i(x', \xi')} d\xi' dz = \frac{1}{(2\pi)^m} \int \widehat{u}_x(x', z) dz$$

より

$$\widehat{u(x', 0)} = \frac{1}{(2\pi)^m} \int_{\mathbb{R}^m} \widehat{u}(\xi', z) dz \quad \text{を得る。可積分式}$$

$P(\xi) = \widehat{P}(\xi, z)$ と $\widehat{P}_p(\xi)$ は $-$ の temperate weight function である

よから

定理 1. $P(\xi) = P(\xi, z)$ は non-trivial polynomial, $\mu \in \mathbb{R}^{n+m}$ 上

の temperate weight function とする。 $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ の各元 u に対して

R^n 上の trace $P(D)u(x', 0)$ が存在するための条件は、次

の条件 (1), (2) の 1) が成り立つことである。

$$(1) \quad \mathbb{R}^n \text{ の点 } \xi' \text{ に対して } \frac{1}{M_{P, P, \mu}(\xi')} = \left\{ \int_{\mathbb{R}^m} \frac{\widehat{P}_p(\xi', z)}{\mu^p(\xi', z)} dz \right\}^{1/p} < \infty.$$

$$(2) \quad \mathbb{R}^n \text{ の任意の点 } \xi' \text{ に対して } \int_{\mathbb{R}^m} \frac{|P(\xi', z)|^p}{\mu^p(\xi', z)} dz < \infty.$$

よから、 $P(D)u(x', 0) \in B_{p, M_{P, P, \mu}}(R^n)$ である。

$B_{p, \mu}(R^{n+m})$ のすべての元 u に対して $P(D)u(x', 0) \in B_{p, \nu}(R^n)$

にするための条件は、次の条件 (1)', (2)' の 1) が成り立つことである。

(1) $\nu(z) \in C, \mu_{p,p}(z)$

(2) $\nu'(z) \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|P(z,z)|^{1/p}}{\mu^{1/p}(z,z)} dz \leq C_2$

証. $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ の各元 u が $\text{trace } P(D)u(x,0)$ なる τ と決定する.

任意の $\eta \in \mathbb{Z}^{n+m}$ に対し τ 変換 $u \rightarrow e^{i\langle x,\eta \rangle} u$ は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ から $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ へ連続, かつ $P(D)e^{i\langle x,\eta \rangle} u = e^{i\langle x,\eta \rangle} P(D+\eta)$ なる任意の $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$ に対し

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \langle P(D+\eta)u(x,0), \phi \rangle = \langle u, \bar{P}(D+\eta)(\phi \otimes \delta) \rangle$$

は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ 上の continuous linear functional, 即ち

$$\bar{P}(D+\eta)(\phi \otimes \delta) \in B_{p',1/\mu}(R^{n+m}), \quad \phi \in \mathcal{D}(R^n).$$

従って $\bar{P}(z+\eta)\hat{\phi}(z)/\mu(z) = \hat{\phi}(z) \sum_{|\alpha| \geq 0} \frac{\eta^\alpha}{\alpha!} \bar{P}^{(\alpha)}(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$.

$\{\eta^\alpha\}$ は一次独立だから, 各 α に対し $\hat{\phi}(z)\bar{P}^{(\alpha)}(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$. 故に \mathbb{Z}^n の a.e. の点 z' で $\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{\bar{P}_p^{(\alpha)}(z',z)}{\mu^{1/p}(z',z)} dz < \infty$.

\bar{P}_p, μ は temperate weight function だから, 上の積分は, すべて \mathbb{Z}^n の点 $z' \in \mathbb{Z}^{n+m}$ で存在し temperate weight function である.

(1) \Rightarrow (2) は明らかであるから (2) を決定する.

$$\widehat{P(D)u(x,0)}(\tau) = \frac{1}{(2\pi)^n} \int_{\mathbb{Z}^m} P(\tau)\hat{u}(\tau) dz, \quad u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$$

より, 任意の $\phi \in \mathcal{D}(R^n)$ に対し

$$\begin{aligned} |\langle P(D)u(x,0), \bar{\phi} \rangle| &= \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \left| \int_{\mathbb{Z}^{n+m}} P(z)\hat{u}(z)\bar{\hat{\phi}}(z) dz \right| \\ &\leq \frac{1}{(2\pi)^{n+m}} \left(\int_{\mathbb{Z}^n} |\hat{\phi}(z)|^{p'} \left(\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P(z)|^{1/p}}{\mu^{1/p}(z)} dz \right)^{1/p} \left(\int_{\mathbb{Z}^m} |\hat{u}(z)|^p \mu^{1/p}(z) dz \right)^{1/p} \right) \end{aligned}$$

$$P(z) = \sum_{|n| \geq 0} \frac{z^{|n|}}{|n|!} P^{(|n|)}(0, z) \text{ と仮定から } \int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P^{(|n|)}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz < \infty. \quad \text{よって}$$

$$\mu(0, z) \leq C(1+|z|)^k \mu(z) \text{ あり}$$

$$\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P^{(|n|)}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz \leq C^{p'}(1+|z|)^{kp'} \int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P^{(|n|)}(0, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(0, z)} dz.$$

従って $\int_{\mathbb{Z}^m} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z)} dz$ は \mathbb{Z}^m にかんして緩増加関数である。よって $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ は $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ で稠密だから $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ の任意の元 u は trace $P(D)u(x, 0)$ である。

任意 $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ の任意の元 u に対して

$$\|P(D)u(x, 0)\|_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{n/p'} \|u\|_{p, \mu}$$

を示すことが出来る。このことから $B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ の任意の元 u に対して $P(D)u(x, 0)$ は $B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(\mathbb{R}^n)$ に属するといえる。

後半の証明も同様である。

定理 2 $\frac{1}{\mu_{\tilde{p}, p'}(\mathbb{Z}^n)} = \int_{\mathbb{Z}^m} \frac{\tilde{P}_p^{(|n|)}(z, z)}{\mu^{p'}(z, z)} dz < \infty$ とする。実数

$$\mathcal{T}: B_{p, \mu}(\mathbb{R}^{n+m}) \ni u \rightarrow P(D)u(x, 0) \in B_{p, \mu_{\tilde{p}, p'}}(\mathbb{R}^n)$$

が epimorphism になるための条件は次の条件の 1) が成り立つ。

(1) \mathcal{T} の range が $B_{p, 1/\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ の中に含まれる。

(2) $\frac{1}{\mu_{\tilde{p}, p'}(\mathbb{Z}^n)} = \int \frac{|P(z, z)|^{p'}}{\mu^{p'}(z, z)} dz < \infty$ が temperate weight function になる。

(3) $f(z)$ が \mathbb{Z}^n の局所可積分関数で $f(z)P(z)/\mu(z) \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$ なる

よして $f(z) / \mu_{p,p'}(z) \in L^p(\mathbb{Z}^n)$ である。

よって $\nu_{p'}(z) \sim \mu_{p,p'}(z)$ である。

この定理から $P(z, z)$ が z のみの多項式の時

$$\frac{1}{\nu_{p'}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|P(z)|^{p'}}{\mu_{p,p'}(z)} dz \quad \left\{ \begin{array}{l} 1/p' < \infty \end{array} \right.$$

であるならば、 $\nu_{p'}$ は \mathbb{Z}^n 上の temperate weight function になり、写像 $u \rightarrow P(D_x)u(x, 0)$ は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ から $B_{p,\nu_{p'}}(R^n) \wedge$ の epimorphism である。

$M \in$ non-negative integer とし、 $\int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|z|^{Mp'}}{\mu_{p,p'}(z)} dz < \infty$ とする。

non-negative integer k_j の組 $k = (k_1, \dots, k_m)$ が $|k| \leq M$ となる

$$\frac{1}{\nu_{k,p'}(z)} = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{|z|^{k,p'}}{\mu_{p,p'}(z)} dz \quad \left\{ \begin{array}{l} 1/p' \end{array} \right.$$

とすると、trace mapping τ :

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \{D_x^k u(x, 0)\}_{|k| \leq M} \in \prod_{|k| \leq M} B_{p,\nu_{k,p'}}(R^n)$$

を考える。 τ は $H' = \prod_{|k| \leq M} B_{p,1/\nu_{k,p'}}(R^n)$ から $B_{p,1/\mu}(R^{n+m})$

への写像で $v = \{v_k\}_{|k| \leq M} \in H'$ に対して

$$\tau v(z) = \sum_{|k| \leq M} \hat{v}_k(z) z^k$$

とすると、 τ は injective であることがわかり、次の結果を得る。

定理 3. \mathcal{T} が epimorphism となるための条件は, \mathcal{T} の range が $B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$ で閉じていることである.

定理 4. $p=2$ のとき, \mathcal{T} が epimorphism となるための条件は 次の条件のうちのいくつかが成り立つことである.

$$(1). \det |X_{Rre}| \geq C \prod_{|R|=M} X_{2R} \quad \tau \in \mathbb{C} \quad X_R(\mathbb{Z}) = \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{z^k}{\mu^2(z)} d\tau.$$

$$(2). u \in H^{1/2}(R^{n+m}) \text{ であり, } \hat{u}(\mathbb{Z}) = \sum_{|R|=M} f_R(\mathbb{Z}) z^k \text{ ならば,}$$

すべての k に對して $f_R / \nu_{R,2} \in L^2(\mathbb{Z}^n)$.

$$(3). u \in H^{1/2}(R^{n+m}) \text{ であり, } \hat{u}(\mathbb{Z}) = \sum_{|R|=M} f_R(\mathbb{Z}) z^k \text{ ならば,}$$

$j = 1, 2, \dots, m$ に對して

$$\hat{u}(\mathbb{Z}, z_1, \dots, z_{j-1}, \frac{z_j}{2}, z_{j+1}, \dots, z_m) / \mu(\mathbb{Z}) \in L^2(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

$1 < p < \infty$ なる任意の p に對して

定理 5. 次の条件は同値である.

$$(1). u \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \hat{u}(\mathbb{Z}) = \sum_{|R|=M} f_R(\mathbb{Z}) z^k \text{ ならば}$$

すべての k に對して $f_R / \nu_{R,p'} \in L^p(\mathbb{Z}^n)$.

$$(2). u \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \hat{u}(\mathbb{Z}) = \sum_{|R|=M} f_R(\mathbb{Z}) z^k \text{ ならば}$$

$j = 1, 2, \dots, m$ に對して

$$\hat{u}(\mathbb{Z}, z_1, \dots, z_{j-1}, \frac{z_j}{2}, z_{j+1}, \dots, z_m) / \mu(\mathbb{Z}) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

$$(3). u \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m}), \hat{u}(\mathbb{Z}) = \sum_{|R|=M} f_R(\mathbb{Z}) z^k \text{ ならば,}$$

任意の整数 $l_j \geq 0$ に對して $\hat{u}(\mathbb{Z}, \frac{z_1}{2^{l_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{l_m}}) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$.

\Rightarrow とし、上記 trace mapping τ は epimorphism τ である。

証) (1) \Rightarrow (2). (1) より $f_k / \nu_{k,p} \in L^p(\mathbb{Z}^n)$. \Rightarrow これは $f_k(z) z^k / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ を意味する. $f_k(z) z^k / 2^{k_j} \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ $\forall k = 1, \dots, 2$ 加える \Rightarrow $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_j}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ を得る.

(2) \Rightarrow (3). (2) より $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_j}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$. $\exists z$
 $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_j}{2}, \dots, z_m) = \sum_{|k| \leq M} f_k(z) z^k / 2^{k_j}$ より $\hat{u}(z', z_1, \dots, \frac{z_j}{2}, \dots, z_m) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$. \Rightarrow τ より (3) を得る.

(3) \Rightarrow (1). (3) より $\hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$. i_1, \dots, i_{m-1} を固定して $i_m \in 0, 1, \dots, M$ と動かす \Rightarrow τ より, 各 $j = 0, 1, \dots, M$ に対応し

$$\sum_{|k| \leq M, k_j = j} f_{k, \dots, k_{m-1}}(z) \left(\frac{z_1}{2^{i_1}}\right)^{k_1} \dots \left(\frac{z_{m-1}}{2^{i_{m-1}}}\right)^{k_{m-1}} z^j / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m}).$$

\Rightarrow の条件下 τ より (3) より, $|k| \leq M$ なる τ の k に対応し

$f_k(z) z^k / \mu(z) \in L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$, τ より $f_k / \nu_{k,p} \in L^p(\mathbb{Z}^n)$ を得る.

(3) が成立すると τ の range が $B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$ で閉じている \Rightarrow τ を示す.

$\vec{v}^j = (v_k^j)_{|k| \leq M} \in H' = \prod B_{p, 1/\mu}(R^n)$ に対応し

$\tau \vec{v}^j$ が $B_{p, 1/\mu}(R^{n+m})$ で u に収束するとする. 即ち

$\sum_{|k| \leq M} \hat{v}_k^j(z) z^k / \mu$ は $L^p(\mathbb{Z}^{n+m})$ で \hat{u} / μ に収束する. μ は正

値連続関数だから $\sum \hat{v}_k^j(z) z^k$ は $L^p_{loc}(\mathbb{Z}^{n+m})$ で \hat{u} に収束

する. \Rightarrow のことから $\hat{u} = \sum_{|k| \leq M} \hat{v}_k^j(z) z^k$, $\hat{v}_k \in L^p_{loc}(\mathbb{Z}^{n+m})$

と書かれる. (3) より $\hat{u}(z', \frac{z_1}{2^{i_1}}, \dots, \frac{z_m}{2^{i_m}}) / \mu =$

$\sum \hat{v}_k(z') \left(\frac{z_1}{z''}\right)^{k_1} \cdots \left(\frac{z_m}{z''}\right)^{k_m} / \mu \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$. i_1, \dots, i_{m-1} を固定して $i_m = 0, 1, \dots, M$ と動かすと $\epsilon = \epsilon_1 + \delta_1$, 各 $j = 0, 1, \dots, M$ に対して

$$\sum_{k_1 + \dots + k_m = M-j} \hat{v}_k(z') \left(\frac{z_1}{z''}\right)^{k_1} \cdots \left(\frac{z_{m-1}}{z''}\right)^{k_{m-1}} z''^j / \mu \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$$

を得る. ϵ の操作をくりかえすと $\epsilon = \epsilon_1 + \delta_1$, $1 \leq k \leq M$ なる k に対して $\hat{v}_k(z') z''^k / \mu \in L^{p'}(\mathbb{Z}^{n+m})$ がわかる. $v_k = \mathcal{F}_k^{-1}(\hat{v}_k(z'))$ と定義すれば $v_k \in B_{p', 1/v_k}(R^n)$ となり u は \mathcal{F}_k の range に属する.

系 μ が \mathbb{Z}^{n+m} 上の temperate weight function τ

$$\mu(z', z_1, \dots, z_{j-1}, z_j, z_{j+1}, \dots, z_m) \geq C \mu(z', z), \quad j=1, 2, \dots, m$$

とみえ可定数 $C > 0$ が存在すれば, trace mapping \mathcal{T} は epimorphism である.

次に $\prod_{1 \leq k \leq M} B_{p, v_k}(R^n)$ の元を \mathcal{T} で, それを trace にもつ $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$ を L. Hörmander の方法で構成する.

定理 6. $\prod_{1 \leq k \leq M} B_{p, v_k}(R^n)$ の任意の元 $\vec{f} = (f_k(z'))_{1 \leq k \leq M}$ とする. χ を $\mathcal{D}(R^n)$ の元で 0-近傍で 1 に等しい任意の関数とす. temperate weight function $\mu(z', z)$ に対して

$$\mu(z', \lambda_R(z')z) \leq \lambda_R^{1 + \frac{m}{p'}}(z') v_R(z') \bar{\mu}_R(z)$$

とみたとき \mathbb{Z}^m 上の正値連続関数 λ_k と, \mathbb{Z}^m 上で緩増加連続関数 $\varphi_k(z)$ が存在するとき,

$$\hat{u}_x(x', t) = \sum_{|k| \leq M} \hat{f}_k(x') \frac{(it)^{|k|}}{|k|!} \varphi(\lambda_k(x') t)$$

と仮定し, $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$ で $|k| \leq M$ なる各 k に対して

$$D_x^k u(x', 0) = f_k(x') \quad \text{とみたとき.}$$

証)
$$\begin{aligned} \hat{u}(x', z) &= \sum_{|k| \leq M} \frac{(-i)^{|k|}}{|k|!} \hat{f}_k(x') D_z^k \int_{\mathbb{Z}^m} \varphi(\lambda_k t) e^{-i\langle t, z \rangle} dz \\ &= \sum_{|k| \leq M} \frac{(-i)^{|k|}}{|k|!} \hat{f}_k(x') \frac{1}{\lambda^{|\kappa|+m}} D_z^k \hat{\varphi}\left(\frac{z}{\lambda_k}\right) \end{aligned}$$

より

$$\begin{aligned} \int_{\mathbb{Z}^{n+m}} |\hat{u}|^p dz &\leq C \sum_{|k| \leq M} \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{1}{(k!)^p} |\hat{f}_k(x')|^p \frac{d\mathbb{Z}'}{\lambda_k^{p(|\kappa|+m)-m}} \int_{\mathbb{Z}^m} |D_z^k \hat{\varphi}(z)|^p \mu(x', \lambda_k z) dz \\ &\leq C \sum_{|k| \leq M} \int_{\mathbb{Z}^n} \frac{1}{(k!)^p} |\hat{f}_k(x')|^p \lambda_k^p(x') d\mathbb{Z}' \int_{\mathbb{Z}^m} |D_z^k \hat{\varphi}(z)|^p |\varphi_k(z)|^p dz \end{aligned}$$

$= z^m D_z^k \hat{\varphi}(z) \in \mathcal{S}(\mathbb{Z}^m)$, $\varphi_k(z)$ は緩増加関数だから右辺の積分は収束する. u の作り方から $D_x^k u(x', 0) = f_k(x')$ は明らか.

trace mapping と他の概念との関係を調べてみる.

$u, v \in \mathcal{D}'(\mathbb{R}^n)$ とする. \mathbb{R}^n 上の任意の δ -列 $\{\rho_j\}$ に対して, 超関数的極限 $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * \rho_j) v$ が存在すれば, \Rightarrow 極限は一意的に定まるから, \Rightarrow これは u, v の strict sense の乗法積

とよ ω $u \cdot v$ とかく. \Rightarrow のとき任意の δ -列 $\{p_j\}$ に対して

$$\lim_{j \rightarrow \infty} u(v * p_j) \text{ 存在}$$

$$\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) v = \lim_{j \rightarrow \infty} u(v * p_j).$$

$\mathcal{D}(R^m)$ の元 ϕ が $\phi \geq 0$, $\int_{R^m} \phi dx = 1$ であるとき,

$$\phi_\varepsilon(x) = \frac{1}{\varepsilon^m} \phi\left(\frac{x}{\varepsilon}\right) \text{ とおき, 上の } \{p_j\} \text{ の代りに } \{\phi_\varepsilon\}_{\varepsilon > 0} \text{ とお$$

きかえたととき $\lim_{\varepsilon \rightarrow 0} (u * \phi_\varepsilon) v$ が存在すれば weak sense の積

とよ ω $u \cdot v$ とかく. \Rightarrow のとき $\{\phi_\varepsilon\}_{\varepsilon > 0}$ は次の restricted

δ -sequence である. \Rightarrow おきかえられた \Rightarrow とか白石氏により示さ

れた. Restricted δ -seq. とは $p_j \in \mathcal{D}(R^m)$ として

$$(i) \text{ supp } p_j \rightarrow \{0\} \quad (j \rightarrow \infty)$$

$$(ii) \int p_j dx \rightarrow 1 \quad (j \rightarrow \infty)$$

$$(iii) \int |x|^{|\alpha|} |D^\alpha p_j(x)| dx \leq M_\alpha \quad (M_\alpha \text{ は } j \text{ に無関係な定数})$$

とみることができる.

strict sense の場合も同様に論じられるので weak sense の場合も以下のようにする. $\omega \in \mathcal{D}'(R^m)$, $u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$ に対して

積 ωu は $(1 \otimes \omega)u$ が存在するとき, \Rightarrow 此で定義する.

$\delta \in \mathcal{D}'(R^m)$ とする. δu は R^m 上の任意の restricted δ -seq. $\{p_j\}$ に対して $\lim_{j \rightarrow \infty} (\delta * p_j)u$ ならば $\lim_{j \rightarrow \infty} \delta(u * p_j)$ と

して定義される. \Rightarrow $\delta * u$ は u に対する partial con-

volution である. $\{p_j\}$ は上の \Rightarrow $\{\phi_\varepsilon(t)\}_{\varepsilon > 0}$ とおきか

えられた.

S. Łojasiewicz は超関数に對し section の概念を導入した。
 $u \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$ が R^n 上に section $\varepsilon \in \mathcal{D}'(R^n)$ を持つとは、超関
 数的極限 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} u(x', \varepsilon t)$ が存在し、 t に無関係であることであ
 る。これは δu の存在と同値である。事実 u が R^n 上
 に section ε を持つとは、 $\phi(t) \geq 0$, $\int_{R^m} \phi(t) dt = 1$ なる任意の
 $\phi \in \mathcal{D}(R^m)$ に対して、超関数的極限 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} \langle u, \phi_\varepsilon \rangle$ が存在し、
 ϕ に無関係にきつるものである。 $\langle u, \phi_\varepsilon \rangle \otimes \delta = \delta(u * \phi_\varepsilon)$
 であるから section の存在は δu の存在と同値である。 u の
 section ε α とすると $\alpha = \lim_{\varepsilon \downarrow 0} \langle u, \phi_\varepsilon \rangle$ であり、
 $\lim_{\varepsilon \downarrow 0} u(x', \varepsilon t) = \alpha \otimes \delta$, $\delta u = \alpha \otimes \delta$ である。

定理 7. 空間 $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ において次の条件は同値である。

- (1) trace mapping $B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow u(x', 0) \in \mathcal{D}'(R^n)$ が存在する。
- (2) $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ のすべての元 u が section ε を持つ。
- (2)' 条件 (2) が strict sense 正しい。
- (3) $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ のすべての元 u に対して、 $\delta \in \mathcal{D}'(R^m)$ との乗
 法積 δu が存在する。
- (3)' $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ のすべての元 u に対して $\delta \cdot u$ が存在する。
- (4) $\mathcal{D}(R^{n+m})$ のある δ -列 $\{\rho_j\}$ に対して $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * \rho_j) \delta$ が
 存在する。
- (5) $\mathcal{D}(R^m)$ のある δ -列 $\{\rho_j\}$ に対して $\lim_{j \rightarrow \infty} \rho_j u$ が存在する。

証) (2), (3) の同値は既に済ませた。同様 (2)', (3)' も同値。
 (3)' \Rightarrow (3), (3) \Rightarrow (4), (5) は定義より明らかだから (1) \Rightarrow (3)', (4) \Rightarrow (1),
 (5) \Rightarrow (1) と証明すればいい。

(1) \Rightarrow (3)'. (1) を仮定すれば任意の $\gamma \in \mathcal{D}(R^n)$ に対して
 $\gamma \otimes \delta \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$. $u \in B_{p, \mu}(R^{n+m})$ とし, $\{p_j\} \in R^{n+m}$ 上の
 任意の δ -列とす。 $u * p_j$ は $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ での u に収束する。
 任意の $\phi \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ に対して等式

$$\langle (u * p_j) \delta, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle u * p_j, \phi(x', 0) \otimes \delta \rangle_{B_{p, \mu}, B_{p', 1/\mu}}$$

より $\lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta$ の存在がわかる。即ち $\delta \cdot u$ が存在する。

(4) \Rightarrow (1). $\{p_j\} \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ での δ -列とす。

$$B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow (u * p_j) \delta = (u * p_j)(x', 0) \otimes \delta \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

この写像は, 各 j に対して連続で, 空間 $B_{p, \mu}(R^{n+m})$ は
 barreled だから写像

$$B_{p, \mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta \in \mathcal{D}'(R^{n+m})$$

は連続である。故に任意の $\phi \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ に対して

$$\langle \lim_{j \rightarrow \infty} (u * p_j) \delta, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle u, \omega_\phi \rangle_{B_{p, \mu}, B_{p', 1/\mu}}$$

なる $\omega_\phi \in B_{p', 1/\mu}(R^{n+m})$ が存在する。

$u = \alpha \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ とすると

$$\langle \alpha \delta, \phi \rangle_{\mathcal{D}', \mathcal{D}} = \langle \alpha, \phi(x', 0) \otimes \delta \rangle = \langle \alpha, \omega_\phi \rangle.$$

$\mathcal{D}(R^{n+m})$ は $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ で稠密だから $\phi(x,0) \otimes \delta = \omega_p \in B_{p,1/\mu}(R^{n+m})$.

すなわち trace mapping が存在する.

(5) \Rightarrow (4). $\{f_j\} \in \mathcal{D}(R^n)$ のある δ -列とする. 写像

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow f_j u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$$

は連続であるから Banach-Steinhaus の定理から, 写像

$$B_{p,\mu}(R^{n+m}) \ni u \rightarrow \lim_{j \rightarrow \infty} f_j u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$$

は連続になり, 任意の $u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ に対して $\lim_{j \rightarrow \infty} f_j u = u(x,0) \otimes \delta$

だから, $\omega = \otimes$ は trace mapping の存在を示している.

$$1/\mu(x,z) \in L^{p'}(\Sigma^m) \text{ を仮定し, } \frac{1}{\nu_p(x)} = \left\{ \int \frac{1}{\mu^{p'(z)}(z)} dz \right\}^{1/p'}$$
 とおく.

$t_0 \in R^n$ の任意の点, $u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ の元とすると, $\tau_{t_0} u \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ で, $(\tau_{t_0} u)^\wedge = e^{i\langle t_0, z \rangle} \hat{u}$ である. 7.2 定理 1 の証明の中で述べた如く

$$\|u(\cdot, t)\|_{p,\nu_p} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u\|_{p,\mu}$$

である. $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ の任意の元 u にとると, $B_{p,\mu}(R^{n+m})$ の中で $u = \lim u_j$ とする $u_j \in \mathcal{D}(R^{n+m})$ が存在し

$$\|u_j(\cdot, t_0) - u(\cdot, t_0)\|_{p,\nu_p} \leq \left(\frac{1}{2\pi}\right)^{m/p'} \|u_j - u\|_{p,\mu}$$

この式から $u_j(\cdot, t_0)$ は $B_{p,\nu_p}(R^n)$ で $u(\cdot, t_0)$ に t_0 にかんして一様収束する = とわかる. $t \rightarrow u_j(\cdot, t)$ は $B_{p,\nu_p}(R^n)$ -valued continuous function だから $u(\cdot, t)$ は t にかんして連

続に $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^n)$ -valued function $u(t)$ である. \square

定理 8. $1/\mu(0,z) \in L^1(\Sigma^m)$ と仮定すると, $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ のすべ
 ての元は $B_{p,\nu_p}(\mathbb{R}^n)$ -valued continuous function $u(t)$ である超関数
 とみなされる. ここで ν_p は $\frac{1}{\nu_p(t)} = \left\{ \int_{\Sigma^m} \frac{1}{\mu^2(t,z)} dz \right\}^{1/p}$ によ
 る Σ^m 上の temperate weight function である.

証) $\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ の任意の元 ϕ に対して

$$\langle u, \phi \rangle = \int_{\mathbb{R}^n} \langle u(t), \phi(\cdot, t) \rangle dt$$

と置く.

$u(t) = u(x, t) \in \mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ にとると $\langle u, \phi \rangle = \langle u, \phi \rangle_{\mathcal{D}, \mathcal{D}}$.

$\mathcal{D}(\mathbb{R}^{n+m})$ は $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^{n+m})$ で稠密であるから, \square の関係は $B_{p,\mu}(\mathbb{R}^n)$
 の任意の元 u に対して成立する.

引用文献

- [1] L. Hörmander, Linear partial differential operators, Springer, (1963).
- [2] M. Itano, On a trace theorem for the space $H^\mu(\mathbb{R}^N)$, J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 30(1966), 11-29.
- [3] M. Itano, Note on the canonical extensions and the boundary

values for distributions in the space H^{μ} , Hiroshima Math. J. 1(1971), 405-425.

- [4] B. P. Panejah, Theorems on traces and on the extension of distributions, Mat. Zametki 2(1967), 577-588.
- [5] R. Shiraishi, On the value of distributions at a point and the multiplicative products, J. Sci. Hiroshima Univ. Ser. A-I, 31(1967), 89-104.
- [6] L. R. Volevič and B. P. Panejah, Some spaces of generalized functions and embedding theorems, Uspehi Mat. Nauk, 121 (1965), 3-74.